

2 社会の要請に応える体験活動等事業

イ 青少年を対象に体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業

Sea To Summit for Children 2023 in 諫早

～0から996m!! 力を合わせて海からの冒険～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔協力〕 株式会社モンベル、長崎県カヌー協会、金泉寺山小屋の会
大村湾漁業協同組合多良見支所、多良岳を愛する会

〔後援〕 諫早市

〔期日〕 令和5年8月5日(土)10:00 ～ 6日(日)14:30 【1泊2日】

〔会場〕 喜々津川河口西陵高校カヌー練習場、雲仙多良シーライン休憩所、轟峡、金泉寺山小屋
多良岳、国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 小学4年生以上中学1年生まで 21名

〔担当職員〕 西田 尚由、貞方 貴衣、他職員15名

1)趣旨

人力で海から里、そして山へと進む中で、自然の循環を体感し、かけがえのない自然について考えるとともに、仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら克服する喜びを味わう。

2)SDGsで目指す姿

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	目標3 すべての人に健康と福祉を 自然の循環を体感することでかけがえのない自然を守っていかうとする意識の向上を図る。
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	目標4 質の高い教育をみんなに 全ての子供たちに質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図る。
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	目標6 安全な水とトイレを世界中に バイオトイレについて学ぶことで安全で衛生的なトイレの大切さについて考える。
		目標14 海の豊かさを守ろう 水の循環をたどりながら水の大切さについて考え、水産資源を守っていかうとする意識の向上を図る。
		目標15 陸の豊かさも守ろう 多良岳に生息する生物について学び、生物の多様性や生態系を守ろうとする意識の向上を図る。
		目標17 パートナーシップで目標を達成しよう かけがえのない自然について考え、仲間と協力しながら自然を守っていかうとする意識の向上を図る。

3)目標

- ①子どもたちが、自らチャレンジし、仲間と協力しながらゴールを目指す。
- ②“人と自然の共生”について学ぶきっかけづくりとする。

4)プログラム

1日目(8月5日)	2日目(8月6日)
9:30 受付開始(喜々津川河口西陵高校カヌー練習場)	5:00 起床、朝食
10:00 開会式【写真①】 (1)海のステージ:大村湾でのカヌー体験 【写真②】	6:30 ③山のステージ:多良岳登山【写真⑤】 GOAL(多良岳山頂)後、金泉寺登山口へ 【写真⑥】
12:30 昼食、8へ移動(バス)	9:00 登山口から自然の家へ移動(バス)
14:00 (2)里のステージ:轟峡までサイクリング 【写真③】	10:00 自然の家着 到着後シャワー・着替え・荷物整理
16:00 轟峡着 (3)山のステージ:金泉寺山小屋へハイク	11:30 昼食
18:00 金泉寺山小屋着 夕食、1日の振り返り【写真④】	12:30 2日間の振り返り、発表
21:00 就寝(金泉寺山小屋泊)	14:00 閉会式
	14:30 自然の家解散

5)事業展開

①開会式



連日猛暑の中、21名の子どもたちが集まった。誰もが不安と緊張の表情に見えた。国立青少年教育振興機構古川理事長が駆け付け、子どもたちにエールを送った。

③里のステージ



諫早湾干拓堤防道路の中央から、多良岳を水源とする轟峡をマウンテンバイクで目指した。コースは平坦から始まり、徐々に緩やかな登りとなり、ゴール手前はほぼ登り坂。参加者は自転車を押し歩くこともあったが全員がゴールにたどり着いた。

②海のステージ



西陵高校カヌー部、長崎県カヌー協会の協力・指導のもとカヌーを漕ぐ体験を行った。初めはぎこちなかったパドル操作もすぐに慣れ、歓声があがり、海を満喫した笑顔がはじけていた。また、陸上では水の循環や環境への配慮等の講話を行った。

④夕食



轟峡から多良岳金泉寺までの6kmを歩き山小屋に到着。山小屋では、多良岳を愛する会や金泉寺山小屋の会の方たちが出迎え、手作りカレーでお腹を満たした。また、山小屋のバイオトイレについて学び、自然環境について考えるきっかけとした。

⑤山のステージ



多良岳を愛する会の方から、多良岳についての講話を聞き、頂上のゴールに向かった。途中、多良岳に生息する生物について学び、貴重なチョウや植物を観察することができた。

⑥ゴール



山小屋から約1時間、標高996mの多良岳頂上で“Sea To Summit for Children FINISH”ゲートを全員がくぐり、歓喜と笑顔の輪に包まれ、達成感に満ちたまぶしい表情を見せた。下山時、バイクのスタート地点が見えるポイントに立ち、「ゼロから登ってきたんだ」と実感することができた。

6)評価

①アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
83%	11%	6%	0%

②参加者の声

- ・ カヌーは最初難しそうだったけど、実際に乗ってみたらとても楽しかった。
- ・ バイクでは坂がきつくて、“もう無理”って思ったけど、自分を待っていてくれる人がいてうれしかった。
- ・ みんなでペースを合わせて歩くというめあてが達成でき、グループのみんなでゴールできた。
- ・ 歩くのはきつかったけど、植物のこと、木のがわかったのがよかった。
- ・ つらいことも多かったけどがんばって仲間と協力してキャンプができてよかった。
- ・ みんな初めて会った仲でも最後までがんばっていてすごいなと思った。

7)成果と課題

①成果

- ・ カヌー、バイク、登山といった日常生活ではなかなか体験できない活動を実施することができ、参加者の満足度も高かった。
- ・ 夏場の実施でコースもハードだったこともあり、参加者は弱音を吐くことも多かったが、参加者同士で声を掛け合いながら頑張り、全員でゴールを迎え、大きな達成感を感じることができた。
- ・ 多くの団体や企業と連携し、運営や資金面等でも協力いただくことで、実施することができた。
- ・ 企画、準備の段階から、事業の担当者だけでなく、所員全体、及び機構職員の方々の協力や助言等を仰ぎ、安全面にも十分に配慮しながら事業を進めることができ、事故等もなく無事にキャンプを実施することができた。

②課題

- ・ “環境学習”も主要な目的の一つだったが、時期やコース等のハードさから“チャレンジ”の要素に重心がかかってしまい、“環境”についての学びが期待していた程高められなかった。